

～貧困とお金と心の問題を、根源から問う～

お金の学校

受講者募集

9月7日
開講

詳しくはウェブサイトで www.trinityinc.jp/updated

『お金の学校』はこんな学校です：

- ・ お金と経済を、心と人間関係（社会）を含めた広い概念で捉えることで、貧困と格差の本質を学び、人間中心の真の豊かさを追求することへの一助とする。
- ・ 一流講師の考え方、生き方、働き方、あり方に直接触れる。

このような方にお勧めします：

- ・ これまでの事業や経営や働き方を、異なる視点から考え直してみたいと感じている方。
- ・ 業界、経験、専門を問いません。

第1回 9月7日(土)	金城敏彦 沖縄県社会福祉事業団理事長 / 樋口耕太郎 トリニティ社長
第2回 9月21日(土)	慎泰俊 五常・アンド・カンパニー社長・NPO Living in Peace 代表理事
第3回 10月5日(土)	武藤北斗 パプアニューギニア海産工場長
第4回 10月19日(土)	影山知明 クルミドコーヒー店主
第5回 11月9日(土)	山本明弘 広島市信用組合理事長・全国信用協同組合連合会会長
第6回 11月30日(土)	西村佳哲 リビングワールド代表 *1-601教室で開催
第7回 12月14日(土)	金城拓真 津梁貿易代表 *1-601教室で開催
第8回 1月11日(土)	尾崎友例 オリエンタルオーナー / 武藤杜夫 日本子ども未来支援機構代表
第9回 1月25日(土)	佐山展生 スカイマーク代表取締役会長・一橋大学大学院教授
第10回 2月8日(土)	松浦弥太郎 くらしのきほん主宰
第11回 2月22日(土)	真山仁 小説家
第12回 3月7日(土)	樋口耕太郎 トリニティ社長

*各講座の開講時間はいずれも6:30pm～9:30pmです

場所 沖縄大学 本館103教室（同窓会館）那覇市字国場555（11月30日、12月14日は3号館101教室）
受講料 12回講座分 3万6千円（消費税込）
受講資格 業界・職種など不問
お申込み (i)お名前、(ii)メールアドレス（必須）、(iii)ご所属・担当業務・役職、をご記入の上、
q@trinityinc.jp まで、eメールにてご送付下さい

運営者
お問合せ



トリニティ株式会社

〒904-0117 北谷町北前1-17-11 phone 098-936-8312

www.trinityinc.jp q@trinityinc.jp

主催者



社会福祉法人 沖縄県社会福祉事業団

<https://www.okinawa-j.jp/>



主催者のことば

社会福祉法人 沖縄県社会福祉事業団
理事長 金城敏彦

営業職で歩合制給与に働きがいを持って突っ走った20代。毎月のノルマ、売上高の棒グラフ張り出し、理念の唱和……。会社の奉仕者として働く事に疑問を感じ、誰にも相談せず突然退社した。しかし、家族がある。仕事はしなければならない。現法人の募集があったので、何も考えず応募し1982年介護職として採用された。

配属先は重症心身障害児の施設だった。施設も介護職も初めての経験で親切丁寧に教えてくれるのかと思いきや、当時は見て学べの時代であった。

施設利用者が、障害の特性を生かしながら、ゆっくり楽しそうに過ごす。そんな彼らの生活を支えることが、私の中で少しずつ快く感じられるようになってきた。365日24時間、一人一人の利用者の幸せのために何を支援すべきか、正解の無い支援方法をひたすら議論し試行錯誤を繰り返し支援に当たる。施設利用者の「笑顔」、家族からの「ありがとう」の言葉がやはり一番のやりがいである。

そんな中、ある利用者の死に直面した。毎朝車いすに移乗し新聞を全面読み、時には詩を創り、職員と意見を交わす。私にとっては、福祉の心を持った「利用者先生」だった。もっともっとよい支援が出来なかったのかと後悔の念が残った。その後、救護施設、老人施設、婦人保護施設と人事異動に伴いたくさんの施設利用者の皆さんと出会い、働く厳しさや辛さ、楽しさや喜び、福祉施設職員としての心構えを学ぶことが出来た。

社会福祉施設の使命は、良質の福祉サービスの提供であり、経営資源は職員の働きそのものである。介護技術も必須だが、一番重要なのは、人間を理解し、気持ちを通い合わせる力だと実感している。私は、支援者の人間力を育成する必要性を、福祉の現場で感じてきた。支援を必要とする人たちの、行動、表情、状態に細やかな意識を払い、彼らの大切なことに関心を持ち、気持ちを理解してから行動しなければ、どれだけ高度な介護知識、技術、経験、判断も一方的な自己判断に過ぎないからだ。

『お金の学校』は、『命の学校』に引き続き、人間力の向上を重視する樋口耕太郎先生の理念に賛同し開校する連続講座である。色々な分野で活躍する魅力ある講師をお招きし、幅広い層に学ぶ機会を提供する。人間を中心としたより良い共生社会が実現出来ることを願い、ここに開校する。

学長のことば

トリニティ株式会社社長・沖縄大学 准教授
樋口耕太郎



貧困はお金の欠如によって生じるが、貧困問題はお金だけでは解決しない。なぜならば、お金は私たちの心と密接に結びついているからだ。私たちの心とお金の関係に向き合うことなしに、貧困と格差の問題を根源的に解決することは不可能だ。

お金は処方箋のない劇薬だ。私たちが薬局に出かけて行って、薬剤師からこう言われたら、あなたは思うだろうか？ ……「この薬はありとあらゆる症状に劇的に効きますよ。ただ、たとえ少量でも飲み方や分量を間違えると、激しい副作用が生じて、ときには命に関わる大事件を引き起こしますので気をつけてください。砂糖で包まれていますので、とても口当たりがよくて服用するたびに興奮を覚えるかもしれません。ところで、この薬に処方箋はありませんので、お客様が工夫しながらうまく飲んでください。お大事に～」……

この「劇薬」を服用すると、多くの場合深刻な副作用が生じる。急速に気分が高揚し、誇大妄想的な幻覚によって人生が薔薇色に見え、自分が成功者のように感じられ、人間的な成長を遂げた気持ちになる。周囲の人たちが愚かで怠惰に見えはじめ、他人を自由にコントロールできると錯覚し、人を平気で傷つけたり、望みもしないことをしてみたりする。一言で表現すれば、他人の関心に対する関心が薄れて利己的になるのだ。薬が少なくなると気分が落ち込み、新たに処方されると傲慢になる。この劇薬には激しい依存性があり、服用するほどさらに薬が欲しくなる。服用した一定比率の患者は、副作用によって友人を失い、人生の価値を見失い、人を傷つけ、ときには命を縮める。

これほど危険な薬ならば、一切関わらなければ良さそうなものだが、そうもいかない。お金が厄介なところは、自分と、自分が愛する人の生活の糧、人生の生きがいを手助けする手段、決済の利便性……など、人生に不可欠な成分が実際に含まれているからだ。お金は、人生に不可欠な薬用成分と幻覚成分が混在した麻薬のようなものだ。

お金には実体がなく、所詮紙にすぎない。これに価値を見いだすのは人間である。お金に関わる問題の多くは、お金に対する私たちの認識によって生み出されている。すなわち、お金を知るためには、お金を使う人間を知らなければならない。さらに、どんなモノにお金を使っても、結局お金は必ず誰かの手に渡る。つまり、お金は人間関係の一種態なのだ。お金を知るためには、人間関係を知らなければならない。

『お金の学校』は、お金と経済を心と人間関係と社会を含む広い概念で捉え、貧困と格差の本質を学び、人間中心の真の豊かさを追求することへの一助とするものである。多くの分野からの参加をお待ちしている。



第1回： 9月7日（土）

樋口耕太郎 トリニティ社長・沖縄大学准教授

1965年生まれ、岩手県盛岡市出身。89年筑波大学比較文化学類卒、野村証券入社。93年米国野村証券。97年ニューヨーク大学（MBA）。約8年間のウォール街での勤務後、共同経営した金融ベンチャー（JASDAQ上場）を業界最大手（当時）に導く。04年沖縄のサンマリーナホテルを取得・再生したことをきっかけに価値観を大きく転換。人間中心・愛の経営による事業再生会社トリニティ設立。12年沖縄大学人文学部国際コミュニケーション学科准教授。人と社会の幸せを考える「幸福論」など担当。沖縄タイムス電版に発表した『沖縄から貧困がなくなる本当の理由』は、県内外で100万人以上に読まれる「隠れたミリオンセラー」である。沖縄に移住して15年。

第2回： 9月21日（土）

慎泰俊(シン・テジュン) 五常・アンド・カンパニー社長

朝鮮大学校法律学科、早稲田大学大学院ファイナンス研究科卒。モルガン・スタンレー・キャピタル、ユニゾン・キャピタルを経て、2014年五常・アンド・カンパニー（株）を創業。途上国の低所得者向けの金融サービスを提供している。グループ従業員は2千人、カンボジア、スリランカ、ミャンマー、インドでの顧客数は40万人になる。2007年にNPO Living in Peaceを設立し、平日夜中と休日・休暇をその活動に費やしてきた。日本では社会的養護下にいる子どもたちへの資金・キャリア支援を行なっている。単著は9冊。2013年に本州縦断1648kmウルトラマラソン完走。2018年世界経済フォーラムのヤング・グローバル・リーダー100人のうちの一人として選出された。囲碁六段、空手黒帯。

<https://www.kodomo.living-in-peace.org/shin-taejun>



第3回： 10月5日（土）

武藤北斗 パプアニューギニア海産工場長

1975年福岡県生まれ。芝浦工業大学金属工学科卒。築地市場の荷受けに就職しセリ人を目指す。その後パプアニューギニア海産に就職し、天然エビの世界に入る。2011年東日本大震災で石巻にあった会社が津波で流され、大阪移住を決意。震災を機に生きる、死ぬ、働く、育てる、などを真剣に見つめるようになり、「好きな日に働ける」「嫌いな作業はやる必要はない」など、独特な経営手法で事業再生を実現。固定観念にとらわれない斬新な経営手法は日本中から注目されている。著書に『生きる職場 小さなエビ工場の人を縛らない働き方』（イーストプレス）がある。

<http://pngebi.shop/>

第4回： 10月19日（土）

影山知明 クルミドコーヒー店主

1973年生まれ、東京都出身。東京大学法学部卒業後、マッキンゼー・アンド・カンパニーを経て、30億円規模のファンドの設立に参画。2008年空き家となった東京都国分寺の生家を建て替え、カフェ「クルミドコーヒー」を開業。2013年食ベログのカフェ部門で日本1位になるなど、東京有数の人気店に。2017年「胡桃堂喫茶店」を開業。出版業、書店業、哲学カフェ、地域通貨などにも取り組み、「一人一人が大切にされる」地域経済社会のあり方を実践している。著書に『ゆっくり、いそげ ～カフェからはじめる人を手放さない経済～』。

<https://www.zenrosai.coop/stories/kurashi/money/money09.html>

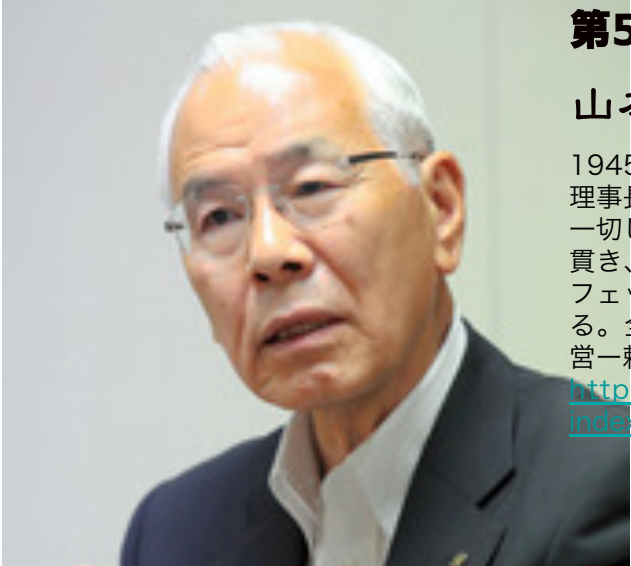


第5回： 11月9日（土）

山本明弘 広島市信用組合理事長

1945年12月6日山口県生まれ。専修大学経済学部卒。広島市信用組合理事長。株式運用は行わず、投資信託や生命保険等リスク商品の販売は一切しない。地元の中小企業への融資に徹するという地域金融の原点を貫き、15期連続増収増益を果たしている。2018年9月3日のNHKプロフェッショナル仕事の流儀に出演。全国の金融関係者から注目されている。全国信用協同組合連合会会長。著書に『足で稼ぐ「現場主義」経営一頼れるシシンヨーが真骨頂』。

<https://www.nhk.or.jp/docudocu/program/284/1669504/index.html>



第6回： 11月30日（土）

西村佳哲 リビングワールド代表

1964年東京生まれ。プランニング・ディレクター、働き方研究家。武蔵野美術大学卒。建築計画、まちづくり、組織開発などの仕事多数。2014年から東京と徳島県神山町での二拠点居住を始め、同町の「まちを将来世代につなぐプロジェクト」に参画。著書『自分の仕事をつくる』など多数。オーストリア・Ars Electronica CenterのPRIX'97|.net部門で金賞、第24回日本照明賞、第40回SDA賞優秀賞、グッドデザイン賞など受賞。全国教育系ワークショップフォーラム実行委員長。奈良県立図書館「自分の仕事を考える3日間」フォーラム・ディレクター。

<https://www.livingworld.net/nish/lang-pref/ja/>



第7回： 12月14日（土）

金城拓真 津梁貿易代表

1981年沖縄県北谷町出身。津梁貿易代表。普天間高校、鮮文大学（韓国）卒。ここでアフリカから留学していた金谷君香と出会い、アフリカビジネスを開始。タンザニアやザンビアなどアフリカ9カ国で、金取引、農場経営、不動産、運送業、金鉱山経営、ホテル等、50社以上の企業経営に携わる。2012年「世界で活躍し『日本』を発信する日本人」の一人に選出される。『ブータロー、アフリカで300億円、稼ぐ！』などの著書がある。<http://www.55shingaku.jp/kengaishingaku/gts/20561/>



第8回： 1月11日（土）

尾崎友俐 オリエンタルオーナー

1968年生まれ、東京都出身。レストラン経営・プロデュース等を行う株式会社オリエンタルホールディングスオーナー。女性起業塾、女性総合研究所を主宰し、全国に多数のファンを持つ。日本テレビ系「マネーの虎」に最年少女性投資家として出演。沖縄に移住し、飲食店多数経営。

<http://www.oriental-japan.co.jp/>



第8回： 1月11日（土）

武藤杜夫 日本子ども未来支援機構代表

1977年東京都生まれ。中学生時代から非行が始まり、問題行動が深刻化。学校をボイコットしていたため、成績は3年間オール1。その後は、ヒッチハイクで全国を放浪するなど、浮浪児同然の生活を送るが、教育者としての使命に目覚めると、一転独学による猛勉強で法務省に採用される。2009年に沖縄少年院の法務教官に着任。逆境から獲得した人間力で多くの非行少年を感化し、更生に導くが、2017年、幹部への昇任を固辞して突然辞職。教え子である少年院の卒業生らと日本子ども未来支援機構を設立して代表に就任。日々子どもの貧困の最前線にいる。

<https://ryukyushimpo.jp/style/article/entry-702978.html>

第9回： 1月25日（土）

佐山展生 スカイマーク代表取締役・
インテグラル代表取締役・一橋大学大学院教授

1953年京都出身。スカイマーク株式会社代表取締役会長。インテグラル株式会社代表取締役。一橋大学大学院教授。日本のM&Aの第一人者として知られる。京都大学（学士）、ニューヨーク大学（MBA）、東京工業大学（博士）。帝人から三井銀行のM&A部門に転職後、独立系投資ファンドユニゾン・キャピタルを創業。GCA創業後2年で上場。従業員第一、ハートフルな経営を支援する投資家として知られる。著書『社長の器』など多数。

<https://blogos.com/article/331282/>



第10回： 2月8日（土）

松浦弥太郎 暮らしのきほん主宰・エッセイスト

1965年東京生まれ。『暮らしの手帖』編集長を9年勤め、15年にウェブメディア「暮らしのきほん」立ち上げ。（株）おいしい健康・共同CEO。

「正直、親切、笑顔、今日もていねいに」を信条とし、暮らしや仕事における、たのしさや豊かさ、学びについての執筆や活動を続ける。著書多数。雑誌連載、ラジオ出演、講演会を行う。中目黒のセレクトブックストア「COW BOOKS」代表でもある。

<https://tsutaya.tsite.jp/news/lifetrend/i/26233488/index>

第11回： 2月22日（土）

真山仁 小説家

1962年生まれ、大阪出身。同志社大学卒業後読売新聞中部支社へ入社。1990年よりフリーランスとして独立。鮮烈な企業買収の世界を赤裸々に描いた、累計260万部の『ハゲタカ』シリーズの著者として知られる。その他『マグマ』『プライド』『コラプティオ』『黙示』『そして、星の輝く夜がくる』『売国』『当確師』『オペレーションZ』『トリガー』（2019年8月末刊行予定）など。1995年阪神淡路大震災で被災。<http://www.mayamajin.jp/>

